

2018 年度 総合研究所特別研究員 研究活動報告

氏名	山本 浄邦
研究テーマ	戦後日韓関係と日本宗教
研究概要	戦後日韓関係に日本宗教がいかなる役割を果たしてきたのかについて、日韓の新聞記事、宗教紙記事など文献の収集・分析および宗教教団関係者への聞き取り調査を中心とした文献研究とオーラル・ヒストリーという2つの方法を相互補完的に用い、時代を追って考察する。

1. 研究活動の概要と研究成果	<p>科研費基盤研究 (B)「戦後日本の宗教者平和運動のトランスナショナル・ヒストリー研究」(代表: 大谷栄一本学社会学部教授)の研究分担者として以下につき研究した。</p> <p>①戦後 50 年期日本宗教教団の朝鮮植民地支配認識に関する研究</p> <p>②釜山・アミ洞の旧日本人墓地を媒介とした日韓コミュニケーションに関する研究</p> <p>①については声明・告白・表白などの朝鮮植民地支配に関する言及の有無、内容を比較検討し、その認識を明らかにした。②については科研の報告書にて報告した。</p>
2. 学術論文・学会発表等	<p>①書籍・論文</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・松田利彦編『植民地帝国日本における知と権力』、思文閣出版、2019年3月、共著。</li> <li>・山本浄邦ほか『明洞 ストリートの文化史』(韓国語)、韓国学中央研究院出版部(韓国)、2019年2月(第一著者)。</li> <li>・『開化期・日帝強占期(1876~1945)在朝日本人情報事典』(韓国語)、ポゴ社(韓国)、2018年8月(担当:加藤文教、大谷光瑞、大谷尊寶、武田範之、巖常圓、音羽玄哲、佐野前励)。</li> <li>・「釜山・アミ洞の旧日本人墓地を媒介とした新たな日韓コミュニケーション:大成寺を中心に」、『戦後日本の宗教者平和運動のトランスナショナル・ヒストリー研究(2016-2018年度JSPS科研費成果報告書)』、2019年3月。</li> </ul> <p>②学会発表・その他</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「釜山・アミ洞の旧日本人墓地を媒介とした新たな日韓コミュニケーションの可能性」、圓光大学校 HK+事業団 2 次年度第 2 回韓日共同学術大会「近現代東アジアの宗教と平和」、2018年11月26日。</li> <li>・特講「国際交流の思想と日本文化理解」(韓国語)、釜山大学校、2018年10月11日。</li> </ul>
3. 競争的資金への応募と採択	<p>韓国の政府資金で運用されている「2018年度韓国学中央研究院出版申請」に申請し採択された。該当出版物は上記 2-①『明洞 ストリートの文化史』として出版済み。</p>
4. 今後の課題	<p>1の①は今後論文として刊行、②は書籍出版に向けて加筆修正を行う予定。</p>